



## 資生堂、「TSUBAKI」の原料産地にて「循環型」となる植林・保全活動を初めて実施

資生堂は、「TSUBAKI」の原料産地である長崎県五島列島の新上五島町※1にて、2011年10月8日(土)、代表取締役副社長の岩田喜美枝をはじめとする社員ボランティア約60名、自治体関係者約40名の計約100名で、椿の植林・保全活動を実施しました。

この活動は、「TSUBAKI」に配合されている中核原料である椿油の産地で、社員自らが椿を守り育てる活動を実施し、その実から再び高品質な椿油を搾油、商品に配合するというサステナブルな資源利用を実現する「循環型」の環境活動です。今回は自生する椿のツル刈り・下草刈りなどの保全活動を行うとともに、約0.1ヘクタールの土地に約150本のヤブツバキの苗木を植林しました。今回保全活動を行った椿は、早ければ来年の秋に実が収穫され、搾油された椿油が「TSUBAKI」に配合される予定です。また、今回植林したヤブツバキの苗木からも、生長によって約10年後に椿油が搾油され、こちらも「TSUBAKI」に配合される予定です。

※1:長崎県南松浦郡新上五島町。五島列島の北側に位置している。

### 資生堂の植林・保全活動について

資生堂は、「一瞬も 一生も 美しく」というコーポレートメッセージを掲げており、自然との共生に向け植林活動などを強化することで、人と地球も永続的に美しくあることを目指しています。また、当社の社名※2にも価値づくりの源泉である大地の徳(=地球の恵み)を活用しながら、持続可能な社会を目指すことが込められており、社名の由来の精神に基づいた活動とも位置づけています。

今回の「TSUBAKI」を通じた「循環型」となる長崎県五島列島の植林・保全活動の他には、以下の活動を推進中です。

※2:「資生堂」という社名の由来である「いたれるかなこんげん ほんぶつとりてしょうず 至哉坤元 万物資生」という中国の“易経”の一節は、「大地の徳(地球の恵み)はなんと素晴らしいものであろうか。すべてのものは、ここから生まれる。」という意味がある。

### ① 和歌山県での「資生堂 椿の森」植林・保全活動

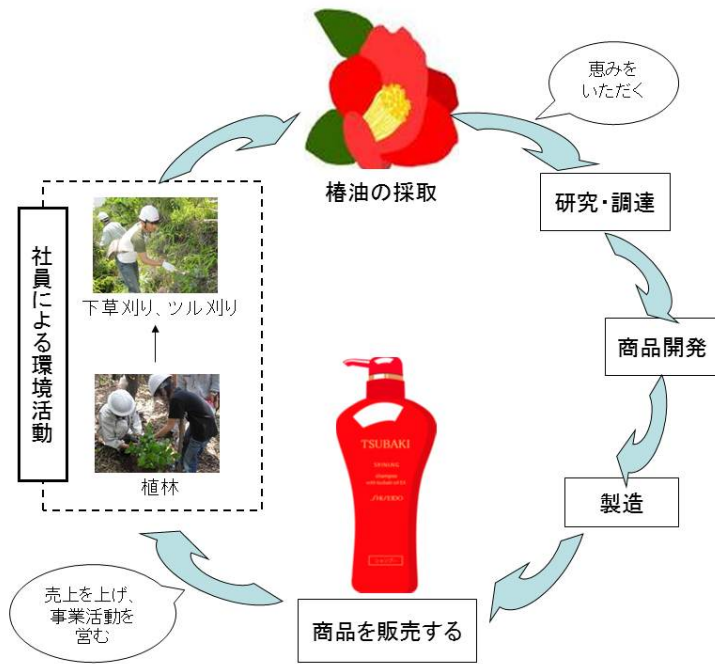
2009年に和歌山県白浜町椿地区にて10年にわたる植林・保全活動を開始し、約1.7ヘクタールの土地に約3,000本のヤブツバキの植林と下草刈りなどの保全活動を行いました。直近では、6月4日(土)に近畿エリアの事業所などを中心に、執行役員を含む社員や家族を含めて100名強が第3回目となるボランティア活動を行い、新たに約0.2ヘクタールの土地に約250本のヤブツバキを植林しました。資生堂のシンボルマークである椿を通じて、社員の環境教育の場とも位置づけています。

### ② 中国での植林活動

2008年4月より10年間の予定で、砂漠化が懸念される中国・甘肅省蘭州市で植林活動を行っており、これまでに48,000本を約23ヘクタールの土地に植林しています。第4回目となる2011年は、日中の資生堂グループのボランティア、中国現地のお取引先さま、政府関係者や管理団体とともに、年間で6.5ヘクタールの土地に17,800本を植林します。10年にわたる緑化活動を通じ、日中の友好関係を深め、CO2の削減効果による環境保護、現地の植林に携わる管理団体の雇用機会の創出など中国社会に貢献することで企業市民としての役割を果たしていきます。

<ご参考>

「TSUBAKI」を通じた「循環型」環境活動のイメージ



10月8日(土)に実施された植林・保全活動の様子



↑ 植林の様子



↑ ツル刈り・下草刈りの様子



← 開会式の様子